

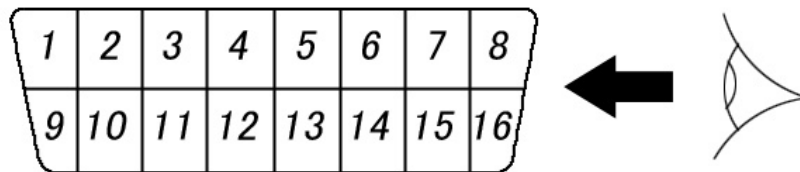
オデッセイ-ABS 自己診断要領

- 適応車種:オデッセイ(RA6、7、8、9 型系)
- 適応エンジン:F23A、J30A
- 適応年式:平成 11 年 12 月～平成 15 年 10 月

以下に故障診断機(G-scan)を使用しない場合の ABS 自己診断要領を記載します。
参考にしてください。

故障コードの表示

1. IG SW を OFF にします。
2. データリンクカプラ(OBD16ピン)の4番ピンと9番ピンを接続し、ショートさせます。
データリンクカプラ(OBD16ピン)は助手席側センターコンソール付近に配置されています。



<図: データリンクカプラ(OBD16ピン)>

3. ブレーキペダルを踏まずに IG SW を ON にしてください。

4. ABS 警告灯が 2 秒間点灯し、消灯後に故障コードが表示されます。尚、正常コードの場合は ABS 警告灯が点灯状態になります。

DTC 12 表示例



<図:故障コード表示例>

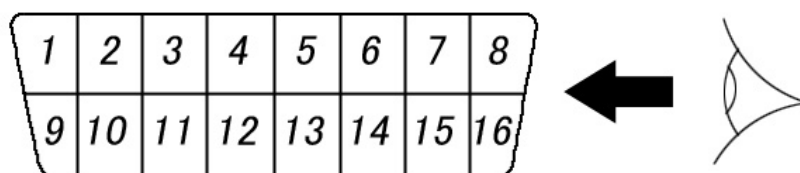
5. 故障コードの表示を終了する場合は、IG SW を OFF にして、データリンクカプラ (OBD16 ピン) の 4 番ピンと 9 番ピンの接続を解除します。

故障コード一覧

DTC	内容 1	内容 2
11	ホイールセンサ診断 (FR)	・ホイールセンサラインの断線/ボディ短絡/電源短絡 ・同一ホイールセンサラインの端子間短絡
13	ホイールセンサ診断 (FL)	
15	ホイールセンサ診断 (RR)	
17	ホイールセンサ診断 (RL)	
12	ホイールセンサ診断 (FR)	・車速が 30km/h のとき、70 秒以上信号がない ・フロントの最速車輪が 10km/h のとき、他のホイールセンサ信号がない。 ・他ホイールセンサラインの端子間短絡 (20km/h 異常) ・ノイズ入力
14	ホイールセンサ診断 (FL)	
16	ホイールセンサ診断 (RR)	
18	ホイールセンサ診断 (RL)	
21	バルサ異常 (FR)	・バルサ歯欠け
22	バルサ異常 (FL)	
23	バルサ異常 (RR)	
24	バルサ異常 (RL)	
31	ソレノイドバルブ診断	・各ソレノイドへのテスト、パルス出力とソレノイド出力の不一致
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
41	ホイールロック診断 (FR)	・走行中のホイールロック
42	ホイールロック診断 (FL)	
43	ホイールロック診断 (RR)	
44	ホイールロック診断 (RL)	
51	モータロック診断	・IG SW ON 後の最初の発進時、モータを ON させたときモータロック状態
52	モータ OFF 故障診断	・モータリレー ON 出力時、モータチェック電圧が 4.5V 以下
53	モータ ON 故障診断	・モータリレー OFF 出力時、モータチェック電圧が 3V 以上
54	フェイルセーフリレー診断	・フェイルセーフリレー ON 出力時、全ソレノイド端子電圧が 2.5V 以下 ・フェイルセーフリレー OFF 出力時、全ソレノイド端子電圧が 7.4V 以上
61	FSR+B 電圧診断	・初期診断時、FSR+B 端子電圧が 8V 以下、または車速 10km/h 以上で 10V 以下
62		・車速 10km/h 以上で FSR+B 端子電圧が 16V 以上
71	異径タイヤ診断	・異径タイヤ装着
81	CPU 診断	・ABS 連続作動 ・ABS コントロールユニット内部診断異常

故障コードの消去

1. IG SW を OFF にします。
2. データリンクカプラ(OBD16ピン)の4番ピンと9番ピンを接続し、ショートさせます。データリンクカプラ(OBD16ピン)は助手席側センターコンソール付近に配置されています。



〈図: データリンクカプラ(OBD16ピン)〉

3. ブレーキペダルを踏んだまま IG SW を ON にします。
4. ABS 警告灯が消灯したら、ブレーキペダルを放してください。
5. ABS 警告灯が点灯したら、再度ブレーキペダルを踏み込んでください。
6. ABS 警告灯が消灯したら、再度ブレーキペダルを放してください。
7. ABS 警告灯が 2 回点滅したら故障コードの消去が完了します。
2 回点滅しない場合は 1. から作業をやり直してください。
尚、2 回点滅後、点灯し続けるときは故障コードの消去モードに入る前の初期診断で異常を検出しているため、故障コードを確認してください。
8. 最後に IG SW を OFF にして、データリンクカプラ(OBD16ピン)の4番ピンと9番ピンの接続を解除してください。